

沙羅の樹文庫だより



評論社刊

新一年生 おめでとう!
いっぱい泣かずして、いかにとわぬことを
じぶんから まなんでくださいな!

春のうた 草野心平

ほっ まぶしいな
ほっ うれしいな
みずは つるつる
かぜは そよそよ
ケルルン クック
ああいいにおいだ
ケルルン クック
ほっ いぬのふぐりがさいている
ほっ おおきなくもがうごいてくる
ケルルン クック
ケルルン クック

被災地の方々に 一日も早い本当の春がきますよう!

☆5月の催し物☆

今年好文庫創立5周年ですので、特別に催し物やセミナーを予定しています。ぜひご参加ください。

5月14日～22日 アートフェスティバル開館

★絵本で世界を巡る展(開館中)

★若葉のころのおはなし会 (大人向け)

①14日(土)17:00～19:00

- 1部 様々な国の昔話(おはなし沙羅のみなさん)
- 2部 フルート演奏(内山洋子さん)
- 3部 青葉の笛(ゲスト佐藤香織さん) ほか

②22日(日)16:00～17:30

ゆったり聴こう日本の昔語り

佐藤玲子さん・渡部豊子さん(宮城・山形の語り部)

★若葉のころの子どものためのおはなし会

◆22日(日)10:30～11:30(東北の語り部の昔話)

★講座<本・子ども・世界>—父母、教師、保育士、図書館員、読書ボランティアのための—

◆21日(土)14:00～16:00

◆講師：広瀬恒子さん(親子読書地域文庫全国連絡会代表。子どもと本のコーディネータ)沙羅の樹に子どもの本をたくさん寄付していただいています。現場でお困りの質問も受けてくださると思います。文庫のおかあさん方にも聞いていただきたいです。

※要事前申し込み。参加費 500円 (大震災支援に)

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆5月は上記、14日(土)～22日(日)開館

◆6月は通常。18日(土)、19日(日)

◆7月は16日(土)、17日(日)

17日夕：海の日のおはなし会

18日午前：5周年記念子どものためのおはなし会&特別イベント

◆8月は16日(水)～23日(火)

※文庫の時間：土曜日は午後2時～5時、日曜日は午前10時～午後3時

※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。

午前10:30～11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》

みんなで勉強会 (おはなし・沙羅)

開館土曜日 11:00～13:00

連絡先：沙羅の樹文庫

電話 0557-51-3737

新しく入った子どもの本

絵本：『みつげよう!はる』(ビーゲン セン作 永井郁子 絵 絵本塾出版)『どうながのブリッツェル』(M.レイブ H.A.レイエ 福音館書店)『ノマはちいさなはつめいか』(ヒョン ドク文 チョウ ミエ絵 講談社)『マグナス・マクシマス、なんでもはかります』(キャスリーン・T.ペリー文 S.D.シンドラー絵 福本友美子訳 光村教育図書)『ライオンとねずみ イソップものがたり』(ジュリー・ピンクニー作 さくまゆみこ訳 光村教育図書) ※2010 コルデコット賞受賞 『わたしのとくべつなところ』(パトリシア・マキサク文 ジュリー・ピンクニー 絵 藤原宏之訳 新日本出版社)

よみもの：『おはなしだどころ』(さいとうしのぶ作・絵 PHP 研究所)『小さな王さまとかわるい童』(なかがわちひろ作 理論社)『天使のすむ町』(アンジェラ・ジョンソン作 小峰書店)『妖怪ハンター・ヒカル かえってきた雪女』※リクエスト 『鬼灯先生がふたりいる!?』 『SOS! 七化山のオバケたち』(富安陽子作 ポプラ社) ※リクエスト ☆ほかに、いただいた本がいっぱい はいったよ

文庫あれこれ◆姫沙羅の若葉が広がり始め、桜が風に舞い散っています。今年好文庫の庭の桜がきれいでした。この木は既に不惑の年になった長男が入学した記念に小学校からいただいたものです。気持ちのよい日本の春です。◆例年ですと、桜前線が東北にちかづき、東海関東～東北へと、一足違いの春をたのしむ人々であふれるのも間もなくだったでしょう。◆いまもって大きな余震が間断なく続き、福島原発の緊急事態に神経をとがらせる毎日です。何とか、被災当事者以外の私たちは、風評被害に惑わされることなく、ひとりひとりがこの国を支えている自覚を持ちたいものですね。◆連絡のとれなかった岩手の友人も、5月に沙羅の樹に来てくださる予定の宮城の語り手もご無事が確認できました。みなさん絵本をもって避難所へよみかけや語りにてかけておられるようです。◆記念文集の原稿も少しづつですが、集まっています。まだの方、ぜひぜひお寄せください。◆絵本の部屋兼書庫もようやく完成しそうです。当初、こんな小さいところに果たしてどれだけの本が入るだろうと不安でしたが、何とか、収納できそうです。ウッドデッキを広くとってもらいました。これからの暖かい季節には、ここで、おはなし会や、いろいろな催しができるのでは、とちょっと楽しみです。ただし屋根なしなのでお天気によりますが。◆以前49号でご紹介した会員の加藤さんの歌集『星に住む』を読みたいと遠隔会員の古市さん(『座間ばあちゃんの遠めがね』著者)から連絡いただいて、お隣のFさんが送って下さいました。ここにまた人と人との嬉しいつながりが生まれました。(西村)

最近お借りした本についての読後感

By 森林浴

2011年3月

『国家の命運』 藪中三十二著

新潮新書 (2010年12月第3版)

著者はもと外務省事務次官。以前に読後感を書かしていただいた、「何処に行くのか、この国は——元駐米大使、若人への遺言」 村田良平著はややタカ派的な立場での憂国論であったけれども、この本は外交に関する啓蒙的な、しかし当たり障りのない「裏話」。外務省のラスプーチンとまで言われた元外務省官僚の佐藤優なども違って、あまり「裏話」的な話はなく、優等生的なレポートと言うべきか。著者の経歴はちょっと面白く、外務省の専門職試験に合格、大阪大学を3年で中退して外務省入省。その後特別職（いわゆるキャリアになるべき外交官の花道）に挑戦、合格。つまりどうしても外交官になろうと初めから外交官特別職試験を受けて通ったキャリアではなかったのである。

『夕暮れの緑の光—野呂邦暢随筆選』

岡崎武志編 みすず書房 (2010年6月第2版)

1937年長崎市生れ。1974年芥川賞を受賞。昭和55年(1980年)42歳で没。静謐・澄明そして秘められた強靱さ。ギラギラした自己主張や読者を驚かしたり脅したりしようとする作品が多い現代において、こういう自己抑制的でも清冽なエッセイを読むと正直ほっとする。九州の諫早に住み着いた野呂邦暢の随筆が、市井に秘かに広がる再版の強い要望に応じて昨年出版されたもの。良い愛読者を持った作者の幸福というべきか。古書や古本屋が好きだった著者の、古書や古本屋に関する章が特に面白い。(2011年3月18日)

2011年4月

『日本人とは何か—神話の世界から近代まで、その行動原理を探る—上・下』 山本七平著 PHP 研究所 (1989年第1版第3刷)

12年前に出た本だが実に面白い。山本七平さんがこれを書いた理由が、外国人に日本のことを聞かれてきちんと応えられない日本人が多いから、せめてこれくらいの知識は身につけてほしいと考えたかららしい。私は記憶力が弱く、なんでもすぐ忘れてしまうくせに、歴史が大好きなので、高校の教科書、山川出版社の「詳説 日本歴史」を座右に置いて、アレあれはどうだったかな、と困ったときはそれを見るようにしているのだが、教科書では書き切れないが非常に大事なことを、じっくり見せてくれるのがこの本。この本を教科書の副読本にすると実に素晴らしい組み合わせになる。

『近代国家への模索 1894~1925 シリーズ中国近現代史②』 川島 真著 岩波新書 2010年第1版

中国歴史のうち、1890年代半ばから1920年代半ばまでの約30年間、つまりは清朝の最期の15年と中華民国前期(北京政府期)(日清戦争から中華民国の崩壊)までの、極めて精細かつ緻密な歴史。国家の領袖でいえば、清の11代光緒帝、西太后、から第12代宣統帝の時代、中華民国の初代大統領、袁世凱の時代を経て臨時大統領も務めた孫文の死に至る時期である。公平な観点からのバランスが良く取れていて見事な著作だが、内容が極めて詳細で事実がぎっしり詰まっているし、岩波新書版なので字が細かく、読みきるのにはかなりのエネルギーが必要となる。日本と中国の関係が難しい時には是非知っておかなければいけないことが多いことがよく分かった。

『血脈 上』 佐藤 愛子著 文藝春秋 2001年第1版

何しろ大長編。上・中・下のうち上巻576ページを読んだだけでの感想。

佐藤 紅緑・佐藤 ハチロー2代の家族の歴史を生き生きと精細に書いた。著者は紅緑の二番目の妻の第三子(次女)。紅緑には一番目の妻と妾の子ども合わせれば全部で9人の子供がいた。紅緑・ハチローともに、驚くべきエネルギーに溢れ、本音で生きるとこうなるという、型破りで遣りたい放題、好き放題の人生を生きた。愛子さん自体もそんじょそこらに居る人ではなく、一種の豪傑なのだと思っただけ。なにか今のように気がめいるような時には元気が出るかもしれない本。

新しく買った大人の本

フィクション: 『地のはてから 上・下』(乃南アサ著 講談社) 『本日は 大安なり』(辻村深月著 角川書店) 『花の鎖』(湊かなえ著 文藝春秋) 『砂上のファンファーレ』(里見和真著 幻冬舎) 『花桃実桃』(中島京子著 中央公論新社) 『チボの饗宴』(マリオ・バリガス=リヨサ著 作品社) ※2010 ノーベル文学賞受賞 『心の宝箱にしまう15のファンタジー』(ジョン・エイキン著 竹書房)

ノンフィクション: 『ユーラシアの東西—中東・アフガニスタン・中国・ロシアそして日本』(杉山正明著 日本経済新聞出版社) 『ストーリーテリング その心と技』(エリン・グリーン著 間崎ルリ子他訳 こぐま社) 『座間ばあちゃんの遠めがね』(古市静子著 杉並けやき出版) 『磯野家の相続—波平の遺産は、どうなる!?』(長谷川裕雅著 すばる舎) 『おかあしちゃんピアノひいたら ト・マ・トって言ったよ』(くちご・妙著) ※元気なおかしなおかあしちゃんの子育て通信: 子育て中のおかあさん読んでみて!

文庫: 『岳物語』(椎名誠著 集英社文庫) 『追悼の達人』(嵐山光三郎著 中公文庫) 『街道についてゆく—司馬遼太郎の六年間』(村井重俊著 朝日文庫) 佐伯泰英著 『血に非ず』(新潮文庫) 『姥捨乃郷』(双葉文庫)

新書: 『戦前昭和の社会 1926—1945』(井上寿一著 講談社現代新書) 『よみがえる脳』(生田哲著 サイエンス・アイ新書) 『モーツァルトを造った男—ケッヘルと同時代のウィーン』(小宮正安著 講談社現代新書) 『老いの才覚』(曾野綾子著 ベスト新書)

★ほかに、寄贈いただいた本がたくさん入りました!

✿本を選ぶとき✿
大人の本を文庫に購入するとき、私は、基本的に新聞の書評を見ます。それから時間があるときは、週刊ブックレビューでチェックします。そして本屋さんに行って現物にできるだけあたります。非常に個人的な選び方です。ただ、自分が読みたいと思うほか、だれか文庫の会員の顔を思い浮かべます。あつ、きつとあの人がこれ読みたいかも、と。文学作品が主です。最近では、人の生き方や、教育、社会情勢・歴史関係の新書に目がいくようになりました。と、まあ、かなり偏っています。どうぞ、リクエストで文庫の選書の不備を補ってください。ぜんぶにお応えできない(さっらのき)